

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス成		
○保護者評価実施期間	2026.8.20 ～ 2026.9.15		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	5
○従業者評価実施期間	2026.8.20 ～ 2026.9.20		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11 (回答者数)	11
○事業者向け自己評価表作成日	2026.9.30		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の発達や特性に合わせた療育を提供している	発達状態や到達度、本人の希望に応じ個別に支援を行っている	複数の課題を準備し、色々な角度からアプローチする
2	本人や保護者の要望に臨機応変に応えることができる	意思決定支援ができるよう、常に傾聴することを心がけている	面談回数を増やす
3	季節やトレンドを取り入れた活動内容を提供している	トレンドを取り入れることによって子どもの興味関心を引き出し、楽しく取り組めるように工夫している	自分のしたいことを言語表出する力と行動に移す力をつけるサポートをするため本人主体の活動を取り入れる

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の関係機関との連携については、機会が限られている	地域の関係機関や地域住民との連携や交流の機会が十分ではなく、保護者への情報発信も不足している	地域資源の情報収集と共有、地域活動への参加機会を増やすとともに、保護者への周知にも努める
2	緊急時、災害発生時の避難訓練や研修を定期的実施しているが、保護者への周知が十分でない	緊急時の引き渡し方法などがわかりやすく伝えられていない	保護者連絡アプリに掲載しておき、いつでも見ることができるようにする
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 放課後等デイサービス成

公表日 2026.9.30

利用児童数

6

回収数

5

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	5					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	4			1		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	5					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	5					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	5					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	5					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	5					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	5					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	5					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	5					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	1	3		1		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	5					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	5					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5					
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	5					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	5					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4	1				
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	5					

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	5					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	4			1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	5					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	5					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	5					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	5				いつも楽しみにしています。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	5				いつも本当にありがとうございます。	

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス成					公表日 2026.9.30	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		デッドスペースをできるだけなくし、広々とした スペースを確保している。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		十分な職員数を配置している。活動内容によって職員をさらに追加したり、支援の質の向上のための研修受講や資格取得を勧めている。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		わかりやすくするため、視覚支援を活用している。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		換気、空気清浄機の使用、掃除、おもちゃ等の除菌を毎日行っている。活動内容に合わせた生活空間の調整を行っている。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		本人が希望すればいつでも個室を使用できるように整えている。			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		多くの意見を出し合って業務改善を行っている。	非常勤の職員もできるだけ会議に参加できるようにする。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		改善すべきこととその改善方法を話し合っている。保護者への周知を早くわかりやすく行えるように努めている。	改善が難しい項目についての話し合いを進める。少しずつでも改善できるよう努める。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的にアンケートを実施している。改善すべき事項があった場合には1週間以内に対応できるように努めている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第三者委員会に外部評価を依頼し、職員だけでは気付かない課題を改善していく。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部での研修に積極的に参加している。法人内での研修も事前に日程調整を行い、多くの職員が参加できるようにしている。			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		nar-u-osaka.com（ホームページ）に公開し、いつでも見れるように事業所内に保管している。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		面談だけでなく、日々の子どもの様子や発言、送迎時に保護者から聞いたことなどを分析して作成している。			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別支援計画作成の際に会議を行い、職員全員の意見を集めてより良い支援方法について検討している。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		毎日、利用児童の個別支援計画に目を通し、支援方法を理解した上で本人の状況を見ながら無理のない程度で支援を行っている。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		職員それぞれがアセスメントを行い、情報共有をしている。			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに沿った支援内容を踏まえて、支援に必要な項目を設定している。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		それぞれの活動にリーダーを決め、そのリーダーを中心に立案している。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		子ども達の意見を取り入れながら、新しい発見や学びのある活動の提供。「楽しい」と思える工夫を行っている。			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		1人ひとりの状況や、課題に応じて、それぞれ必要な支援を行えるように個別支援計画を作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		当日の活動内容、それぞれの役割、注意事項等について話し合っている。	打ち合わせの時間が少ない場合でも自分の役割や周りの動きが分かるようにノートにまとめる。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		それぞれの気になった点や良かった点を話し合い、改善点や支援方法について話し合っている。	非常勤の職員にも後日意見をもらうなど、多くの意見を集める。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		改善策を出し合って、より良い支援方法を日々検討している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の更新を行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		スタッフ間で情報共有をした後、管理者が参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて関係機関と連携できるように体制を整えている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		必要に応じて情報共有と相互理解を図っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者からの同意を得てから、小学校に出向き、情報共有している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)		○		児童発達支援センターとの関わりを持つ。スーパーバイズや助言を受ける機会を作る。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		地域のこどもと交流できるイベントがあれば積極的に参加する。地域の子どもと関わる企画を考え、主催する。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡ノートや送迎時に日頃の様子を伝えている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		保護者の悩みを聞ける機会を作る。参加しやすい研修を考え、保護者に周知する。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		見学、契約時に書面を見ながら説明をしている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談により、子どもと保護者のニーズを把握している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		毎回更新時は保護者に説明をして同意を得ている。また、意見がある場合は気軽に相談してもらえるように声をかけている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		相談があった際は速やかな対応を心がけている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者同士、きょうだい同士が交流できる機会を設けている。	保護者会の開催をする。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情があった場合は、対応できる範囲を職員間で話し合い、迅速かつ一貫した対応をしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		アプリを通じて活動内容の報告、行事予定を配信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵付き書庫に保管している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		それぞれに合った意思疎通や情報の伝達に工夫をしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		イベントを開催して地域住民を招待するなど関わりの機会を作る。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		それぞれのマニュアルを策定し、いつでも誰でも見れるところに保管している。また、定期的に訓練を実施している。	保護者に分かりやすく伝えるための工夫をする。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定し、水害、地震、火災、それぞれの避難訓練等を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		保護者に確認し、対応方法、役割分担等のマニュアルを策定している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			食物アレルギーのある子どもが通所するようになった時には対応する。 現状はアレルギーの子はいない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づいて、必要な研修や訓練を行っている。参加できなかった職員を対象とした2回目の研修にも参加できる職員は参加している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			保護者が内容について定期的に確認できるように工夫をする必要がある。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		些細なことでもヒヤリハットに記録を残し、再発防止について検討している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		定期的に研修を行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		現在身体拘束が必要になる場面はないが、研修等で身体拘束に関する知識は学んでいる。	